

概況総括：『今期は持ち直しの動きがあったが、先行きは慎重な見通しが強まっている』

【調査概要】

- 今期(平成 27 年 10-12 月期)の業況調査 DI12 項目では、プラス DI は「原材料単価」15.0 (前回 2.1)、「生産設備」0.4(前回 4.4)の 2 項目(前回 2 項目)である。
- 現在の経営状況を示す「売上高」から「生産設備」までの 9 項目では、
 - 景況感を端的に表す「売上高」▲14.7(前回▲18.8)は、ものづくり補助金等の影響による生産設備関連の好調等でやや改善した。
また、「収益状況」▲13.3(前回▲18.9)、「資金繰り」▲5.4(前回▲6.6)も同様に改善した。
「原材料単価」15.0(前回 2.1)については、原油安、資源価格の低迷を反映して大きくプラスとなった。
一方で、「受注単価販売価額」▲13.0(前回▲10.1)、「取引条件」▲3.2(前回▲2.8)は前回に引き続き下降傾向にある。
 - 現場の繁忙さを表す指標では、「操業率」▲0.4(前回▲7.3)、「受注残」▲6.0(前回▲7.0)は改善しており、一部の企業は仕事量を確保している。
「生産設備」0.4(前回 4.4)はプラスを維持している。
- 「来期受注」▲17.6(前回▲0.7)、「来期採算」▲17.6(前回▲10.1)、「来期資金繰り」▲11.9 (前回▲7.7)は 3 項目ともに減少・悪化となっており、先行きについてはより慎重な見通しが強まっている。
- 「企業経営上の悩み」については、「受注不安定」44.2(前回 48.2)、「人材不足」25.2(前回 25.9)が高止まりしている。
- 今期は、ものづくり補助金による生産設備関連で若干の動きがあり、前期よりもやや改善した。また、一部業種（工作機械、車両、建設資材関連等）では依然繁忙状態が続くところもある。
一方で、中国・新興国経済の減速等により、伸び悩む企業もあり、石川県内製造業の景況は引き続きまだら模様である。
先行きについてもより慎重な見通しが強まっており、平成 27 年度補正予算による政策効果を期待したい。

